



PLUS ULTRA

富キャン Express

Vol. 16



~ The emblem of HAKUOH UNIVERSITY ~ (白鷗大学足利高校富田校舎広報)

The checker means five continents, the stripe means three oceans, and they express the posture that we'll have a good look at the world widely.

SSHから更なる進化へ

校長 平野英治



くの皆様と、意欲的に取り組んでいる生徒諸君に感謝しています。

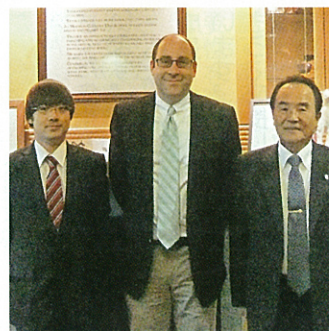
現在のSSHの活動は国内を中心にしていますが、来年度からは海外の姉妹校及び、協力を依頼していた海外の大学や高校との連携も順調に準備が整い、海外へ視野

今年5月、NASAのスペースシャトル「チャレンジャー」号に搭乗した元宇宙飛行士ジョン・A・マクブライド氏の講演からSSH(スーパースペースハイスクール)初年度の行事がスタートしました。関係の先生方を始め指導・協力していただいている大学や各種学校、関連企業や近隣の学校等の多



カリフォルニア・サイエンスセンターにて

を向けた取り組みも行っていきます。それに先駆け、米国ウィスコンシン州にあるマディソン・カントリー・デイン・スクールを訪れた際には、同校近隣のウイスコンシン州立大学で、ES細胞の模擬実験に参加してきました。実験中の生徒諸君の目の輝きは印象的でした。同大学では今後のSSH活動における連携もお約束いただきました。米国では新たにカリフォルニア州サンディエゴにあるマラナサ・クリスチャン・スクールと次年度以降の国際交流を含めての科学的な共同研究の話も進めてまいりました。同州ロサンゼルスでは広大なカリフォルニア・サイエンスセンターを見学しました。1階のフロアーにはNASAから直接飛行機の上に乗せて運んだスペースシャトルエンジン「デバー」が展示されています。その他にも歴代の宇宙ロケットや宇



マディソン・カントリー・デイ・スクールの校長先生と

全国高等学校総合文化祭囲碁部門優勝！

一有終の美を飾る！

7月23日・24日、東京都の日本棋院で行われた全国高校囲碁選手権大会に、団体戦で、進学コース三の二塚田花梨さん(栃木南中)・進学コース三の二出井千尋さん(栃木西中)・進学コース三の二佐々木智子さん(東陽中)の3人が、



対局する塚田さん(右)

個人戦で塚田さんが参加しました。団体戦は1勝2敗で予選敗退でしたが、1勝したことは大きな自信となりました。個人戦の塚田さんは予選を順調に勝ち進みましたが、準々決勝で激戦の未敗れました。気を取り直して臨んだ後の対局は全勝し5位入賞という結果となりました。

また、8月3日・4日、長崎県で開催された全国高校総合文化祭の女子個人戦に塚田さんが出場しました。1回戦の相手は強敵の一年生で



顧問の前田先生と一緒に

したが、激戦を制し波に乗り6連勝しました。昨年2位の雪辱を果たし、3年間で2回目の優勝、有終の美を飾ることができました。



SSH指定校として海外での活動も積極的に進めていきますが、その目的の一つは皆さんがグローバルな人材になることです。日本が世界でその存在感を更に示すためにも、皆さんのこれからが大切です。グローバルな人材とは、英語を中心とした外国語での「コミュニケーション能力、異文化理解や活用能力、そして社会人としての基礎力を備えている人だと思えます。これらの能力を育成するために、文部科学省はグローバル・ハイスクールを推進しています。SSHの指定を契機に、更なる発展を目指し、よりグローバルな取り組みを学校全体で行なっていきたいと思えます。



いました。また、進学コース二年五組、進学コース三年五組の数学物理の研究展示や、科学部の富田校舎近隣の「植生マップ」の展示などがあり、これからの富田校舎のSS



富can祭オープニングのテープカット

Hの研究発表・展示でした。特に特別選抜コース合同研究の「植物物中包含される金属イオンの検出及び分析」の発表は多くの人を惹きつけてきました。今年の特色はなんと「SS」の発表は多くの人を惹きつけてきました。今年も学校内の公開日に白鷗足利中の全生徒が来校したこともあり、例年に比べて賑やかな2日間となりました。



開会式の様子

7月12日・13日に3年に一度の大イベントである「富can祭」が行われました。記録的な猛暑の中、たく

ラスなど、行列で廊下が溢れてしまつクラスも多々見受けられました。保護者の皆様へ提供して頂いた品物によるバザーも例年にも増して大盛況でした。体育館では本格的な音響機器が設置され、有志



科学部作成の植生マップ

H研究の発展を感じさせてくれました。本校舎からは総合選択コースの各エリアの展示による参加もあり、文化的な面も強調されました。文化祭の中心ともいえる各クラスの催し物も、少ない予算の中で工夫に工夫を重ねて準備をしていました。錯覚を利用した展示物「トリックアート」で驚かせてくれるクラス、金魚すくい、夏の夜の縁日に来たような気分をさせてくれるクラス、段ボールで作成したジブリのキャラクターをお化け屋敷形式で見せるクラスなど、行列で廊下が溢れてしまつクラスも多々見受けられました。保護者の皆様へ提供して頂いた品物によるバザーも例年にも増して大盛況でした。体育館では本格的な音響機器が設置され、有志



進学コース3年3組「名探偵ナツコ〜3-3からの挑戦状〜」



有志バンド「Étoile」による演奏

3年に度しか行われない富can祭が、今年開催されました。私が生徒会副会長を務めた中でも最大の学校行事です。4月から生徒会役員が丸となった団体や部活動による発表が行われました。各団体とも、毎日のように練習してきた成果を力いっぱい発揮していました。テーマである「富can魂」が表すように全生徒がそれぞれ全力を尽くし、来校者も含め多くの笑顔が溢れた2日間となりました。



進学コース3年2組 津久井 七重 (毛里田中)

生徒会副会長の感想

〜感謝をこめて〜

この成功は一人の力では決して成し得なかったことだと思えます。生徒会役員が協力し、支えてくれたから頑張ることができました。また、忙しい中で相談に乗ってくださった先生方にもとても感謝しています。私は生徒会活動を通し、少しは成長できたのではないかと考えています。これらの経験を糧として、さらなる成長し続けていけるように、これからの人生を歩んでいこうと思えます。



男装女装コンテスト

企画についての話し合いをしてきました。当初は、慣れないことや分からないことばかりで不安や焦りがありました。しかし、納得がいくまで話し合いを重ね、成功の形が見えてくるようになりました。その甲斐があつて、生徒会主催で行ったオープニングイベント「男装女装コンテスト」は、会場全体で盛り上がる事ができました。多くの生徒の喜ぶ声を聞き、嬉しく感じました。この成功は一人の力では決して成し得なかったことだと思えます。生徒会役員が協力し、支えてくれたから頑張ることができました。また、忙しい中で相談に乗ってくださった先生方にもとても感謝しています。私は生徒会活動を通し、少しは成長できたのではないかと考えています。これらの経験を糧として、さらなる成長し続けていけるように、これからの人生を歩んでいこうと思えます。

平成25年度 修学旅行

心に響く思い出

11月7日から11月14日にかけて、修学旅行が実施されました。今年度はアメリカ西海岸、東海岸、沖縄、オーストラリアの4つのコースが催行されました。それぞれ思い出に残る楽しい修学旅行になったようです。以下は各方面の生徒の感想文です。

(東海岸コース) アメリカ文化に触れて

特別選抜コース2年1組
金 慧周(佐野北中)

7日間にわたる修学旅行は、私にとって非常に有意義で、充実したものとなりました。日本を離れて遠いアメリカへと到着し、初めは14時間も遅れている現地時間に悩まされましたが、次々と視界に入り込んでくる異文化に、閉じかけた両目が何度も大きく開きました。現地のガイドさんなどからの熱心な説明を聞けば聞くほど、アメリカ人の愛国心やユーモラスなところがよく分かり、心から楽しむことができました。



フェンウェイパークにて

(西海岸コース) アメリカで感じたこと

進学コース2年3組
亀田 百華(板倉中)

初めてのアメリカは、何もかもが新鮮で驚くことばかりでした。ファーマーズマーケットは、カラフルなショップが立ち並び、通りを歩くだけで心踊り、その活気に圧倒されました。そこの店員さんとのコミュニケーションを通して、アメリカ人の「温かさ」を感じる事ができました。このことだけでなく、様々な場所でアメリカ人の優しさに救われました。サンタモニカの海の美しさに感動し、UCLAではアメリカの大学生の活気を直に感じました。テレビ画面の中

とができました。

また、この修学旅行は、私にとって一番英語を話した期間でした。慣れない言葉を操るのには想像以上に勇気が必要で、時々うまく伝わらないことがあると、緊張と焦りで一瞬固まってしまうこともありました。それでも身振り手振りを加えて、理解してもらおうと努力しました。

初雪のニューヨークから成田へ立ち、長いよつであつという間に過ぎていった修学旅行は終わりましたが、まだまだ見足りません。次回は高校卒業後、いつかまた有意義で充実したアメリカ訪問を果たしたいと思っています。

しか見たことの無かった世界に実際にいって、いろいろなことが初めてのことばかりで、1日1日が刺激に溢れていました。たった6日間でしたが、心の底から楽しいと思える修学旅行でした。

この体験を、これからの生活に活かしていきたいです。たくさん素敵な経験をありがとうございました。



レストランにて

(沖縄コース) 段ボールを片付けながら

進学コース2年3組
落合 安純(小山三中)

私は旅行の準備が大嫌いです。正直今回も憂鬱でした。しかし、図らずも、私は沖縄修学旅行を満喫して来ました。

飛行機初体験で、石垣島に到着し、今まで触れたたことのない海の姿に感動。更には、その海でカヌーやシュノーケルまで体験させてもらいました。改めて気づいたことなのですが、私は自然が好きだったので、これには、自分でも驚きました。この旅行は楽しいことばかりではありませんでした。3日目の夜、

(オーストラリアコース) 思い出に残るホームステイ

進学コース2年5組
中山 友美(小山中)

期待よりも不安で押し潰れそうになった8日間の修学旅行。私はオーストラリアで多くのことを学び、多くのことを経験しました。その中でもホームステイは私自身を成長させ、自立心を促してくれた貴重な体験となりました。

ホームステイの他に、英語しか話してはいけないという緊張感の中過ごした語学学校では様々な人と触れ合い、文化の違いを知ることができました。また、キュランダ観光では、オーストラリアの自然豊かな環境を目でみて、肌で感じ、オーストラリアの人々がどれほど自然環境を大切にしているのかを改めて感じました。

この8日間はとても思い出に残る経験となりました。ホストファミリー

ホテルで沖縄戦を体験した方から話を聞く機会を得ました。生々しく痛々しい話は辛くなるばかりでしたが、話をする方が辛いだろつとも思いました。最後、彼女は私達一人一人に握手をしてくれました。あの手のぬくもりと強さを私は一生忘れません。この講話から、相手を思いやること、自分を大切にすること、そして、どんな時でも生き抜くことの大切さを教わりました。

旅行中、貴重な経験は多かったのですが、あつという間の5日間でした。荷物を片付け終わった今の気分は寂しさもありますが、すがすがしくもあります。私は旅行の片付けは割りこ好きなのです。

りとの別れは本当に辛かったですが、この旅行を通して、世界の共通語である英語を活用する能力の必要性を強く感じました。英語を完璧に話せるようになるために、小さいことでも毎日積み重ねて努力していきたいです。



トリニティ・ベイ・ステイト・ハイスクールにて



国際通りにて

